



人魚は本当にいるの

人魚のミイラがあった！

ミイラというものを知っていますか。大昔から行われてきた死体を処理・保存する方法として、ミイラにする方法がありました。古代エジプトの、王様たちのミイラは有名です。世界には、人魚のミイラといわれるものが、いくつも残されています。そうすると、「人魚は、本当にいたのだ」とだれでも思うでしょう。しかし、世界各地に残された人魚のミイラを、レントゲンなどで調べてみると、これらはすべて、にせ物であることがわかりました。ほとんどが、サルと大きな魚を組み合わせてつくったミイラだったのです。つまり、人魚は人間が考えた生き物で、本当は存在しないものなのです。

世界各地にある人魚伝説

人魚とは、体の半分が人間で、あとの半分は魚の形をしているものである、と考えられています。この形は、かなり昔から、世界のいろいろな国の人たちが想像していました。世界でいちばん古い人魚の人形というのは、今から2700年近くも昔のものとされています。このほかに、こういった動物の伝説は、中国や日本にもたくさんあるのです。国や所がかかわっても、人間が考えることは、いっしょですね。

船乗りが人魚とまちがえたジュゴン

おもに熱帯の海にいるジュゴンは、体長が3メートル近くもあり、その姿・形から人魚と思われていたことがあります。かつては、たくさんいたのですが、とりすぎで、今では絶滅のおそれのある動物に指定されています。（監修・青木 国夫）

